

平和の尊さを伝え、 二度と戦争が起こらない世界に

平成23年8月7日から10日までの3泊4日の日程で、浦添市中学生平和交流団12人(中学生10人・教諭1人・引率1人)が被爆地長崎市を訪問しました。



問い合わせ 国際交流課 ☎876-1234 (内線2611)

浦添市では、昭和61年に「平和都市宣言」、平成8年に「核兵器廃絶宣言」を制定し、この精神を更に高めるため、平成8年度から中学生平和交流団を県外へ派遣しています。今年度で16回目となるこの事業は、平和学習を通して、未来を担う中学生が戦争の悲惨さ、平和の尊さを学び、次世代へと伝えていくことを目的としています。

長崎市では、「長崎原爆資料館」や「永井隆記念館」などを見学し、「被爆66周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」へ参列しました。また、「青少年ピースフォーラム」に参加して、原爆の実相を学ぶとともに、戦争のない社会をどのように実現していくかを意見交換しました。



事前研修

浦添・沖縄戦を知る

交流団は、長崎での本研修に備え、3回にわたって事前研修を行いました。

第1回事前研修では、嘉数高地やチヂフチャーガマ、前田高地といった戦跡を巡りました。戦時中、日本軍司令部は首里にあり、そこへ向かう米軍を阻止しようとした日本軍は、激しく抵抗し

青少年ピースフォーラム

8月8日、9日には、全国から集まった小中学生や高校生らと被爆の実相を学び「平和の尊さ」について考えました。フォーラムではグループに分かれて積極的な意見交換が行われ、「平和な世界をつつていくためにできること」をテーマに平和宣言文を作成しました。

恵みの丘長崎原爆ホーム被爆体験講話

高山スズエさんから被爆体験を聴きました。火の海の中で我が子の名を叫ぶ母親や、たくさんの人が重なるように亡くなっていたことなど、悲惨な原爆投下時の様子を語り、戦争は二度と起こしてはならないと団員へ伝えていました。



交流会
講話後に行われた交流会では、交流団が披露したエイサーにアンコールの声が上がり、「ていんさぐぬ花」の歌に会場から温かい拍手が送られました。



事後研修

浦添沖縄戦を学んだ事前研修や長崎での本研修を振り返り、学習の成果を市長に報告しました。また、壁新聞を作成し、8月15日から19日まで市役所1階市民ロビーで展示しました。

宮崎県日向市との交流会

太平洋戦争中に浦添国民学校(現在の浦添小学校)の疎開先であった日向市から中学生平和交流団が来市し、8月19日に交流会を行いました。両交流団合同で平和宣言文を作成し、浦添城跡内の「浦和の塔」の前で読み上げるなど、平和交流を通じて親睦を深めました。



交流団の感想

浦添中学校 松川 棕

今回、原爆が落ちた長崎に行き、戦争の恐ろしさを改めて知りました。しかし、今もまだ戦争が続いている国があります。戦争をあまり知らない僕たちが被爆者、体験者の話をしっかりと聴き、学んだことをしっかりと友達や家族などたくさんの人に伝えていきたいです。そして、戦争を起こしてはならないという使命を果たしていきたいです。

仲西中学校 上地 まお

今回の研修を通して、沖縄戦と原子爆弾の恐ろしさ、悲惨さ、残酷さを改めて知ることができました。そして、今を生きている私たちは、平和を願うだけではなく、小さなことから少しずつ行動に移していかなければならないということも学びました。私たちは未来へ、二度と同じ過ちをしないように語り継いでいきたいです。

神森中学校 比嘉 恭之介

今回の平和交流団を通して、戦争の悲惨さと平和の尊さを学びました。たった一つの原子爆弾が多くの命を奪っていったことに怒り、悲しみを感じました。そして、このような事が二度と起こらないように戦争の悲惨さを伝えていき、平和の尊さを伝えていこうと思いました。世界がずっと平和であるように祈ります。

港川中学校 武島 満梨菜

今回の研修で、戦争の恐ろしさを改めて実感しました。たった一つの原子爆弾で、たくさんの命が消え、たくさんの悲しみを生み出した。そんな恐ろしい戦争を二度と繰り返さないため、私たちが学んだことを、少しでも多くの人たちに伝えていきたいです。被爆者の方が涙を流しながら話してくれたことを無駄にせず、発信していきたいです。

浦西中学校 知花 夏

僕はこの研修を通していろいろなことを学びました。特に平和を願ってばかりでは絶対に訪れないということが分かりました。今回の研修で学んだことをたくさんの人に伝え、経験を十二分にいかして、立ち止まって祈るばかりではなく、一人一人の平和の思いを強くして、少しずつでも、核廃絶、戦争放棄を進めていきたいと思っています。

浦添中学校 佐久川 葉子

長崎に落とされた原子爆弾、沖縄であった地上戦、違いはあるけれど、どちらも被害者がとても傷つき、深い悲しみに襲われたことに変わりありません。それでも、人々は支え合い、助け合ってきました。「今」がどれだけの人のお陰で成り立っているかを良く考え、過去を知り、より良い未来を築けるように、今回の体験をできるだけ多くの人に伝えていきたいです。

仲西中学校 興座 幹人

今回、長崎へ研修に行って、原子爆弾のことを勉強し、被爆者の方のお話を聞いたりして原爆の恐ろしさ、被爆者の苦しみ、原爆への憎しみを知ることができました。原子爆弾は、たくさんの人の未来を、生命を奪い、その後障がいが残るなどして今もなお苦しめています。こんな悲劇が起こらないように僕たちがたくさんの人に伝えていきたいです。

神森中学校 具志堅 涼子

今回の研修で、原爆や戦争の恐ろしさを改めて知りました。沖縄戦でも長崎の原爆でも尊い命が無意味に奪われてしまいました。戦争体験者の方が涙ながらに語ってくれた悲惨な体験を忘れずに、次は私が語り継いでいく番だと思います。もう二度と、愚かな戦争を繰り返さないように、その役目をしっかりと果たしていきたいです。

港川中学校 前城 裕太

今回、長崎に行って原爆の恐ろしさを知り、この世にこんなことが起こったのは考えられないと思い、核兵器がある限りはこの惨劇が繰り返されてしまうと思いました。今、このことが風化されてきていると思います。二度と繰り返されないように、今回学んできたことを無駄にせず、みんなに伝えていきたいと思いました。

浦西中学校 又吉 みなみ

今回の研修で、原爆や放射能の恐ろしさを改めて知りました。原爆ではたった一つの爆弾で多くの尊い命が奪われました。そんな恐ろしい戦争を二度と繰り返さないために、私たちが学んだ戦争のことをいろんな人に伝えていきたいと思っています。